

	教科書検討の観点	「小学道徳 生きる力」の内容の特色	主な関連ページ
1. 範囲および程度	(1) 教育基本法等への適合 道徳科の目標に照らして、内容が適切に取り上げられているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●教育基本法第2条に示された教育の目標に基づき、広い知識と教養、豊かな情操と道徳心、伝統・文化を大切にす心、自己を見つめ社会を創造する高い公共の精神を育むため、多様な教材を選択しているとともに、構成に工夫をしている。</li> <li>●第一号関連……教材で扱う題材は、発達の段階をふまえながら、家庭、学校、社会の幅広い分野のものをバランスよく採用している。標準時数外の教材で、本文教材の代替または補充用として、学校の実態に応じて適宜活用できるような教材を用意しているのも効果的である。また、問題解決的な学習に適している教材や体験的な学習に適している教材には、手引きとなるページを提示しており、豊かな情操と道徳心を培うための道筋として参照することができる。</li> <li>さらに、「心のベンチ」という教材外のページを挿入しており、教材で示される主題などをより多面的・多角的に考えることができるよう、関係する教材の前後に適宜配置している。</li> <li>●第二～五号関連……学習指導要領への準拠性を重視し、道徳的価値に関するすべての内容項目を扱いつつ、重点とすべき内容項目については複数の教材を取り上げている。特に道徳教育における現代的な課題を重視し、生命の尊重、自他の敬愛、郷土愛、国際理解などに関わる教材を重点的に取り上げている。</li> </ul>	学習指導要領内容項目別教材一覧表… 【各巻】(表紙裏)
	(2) 内容の程度 発達の段階を考慮し、児童の興味関心に適合したものであるか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●児童の発達の段階を考慮した内容であり、1年間、及び6年間を通した系統性に配慮されている。</li> <li>●1年……「保・幼、小」の連携に配慮し、「スタートカリキュラム」を意識した内容となっている。(p. 6～27)</li> <li>●2年……学年の段階に応じて、基本的な生活習慣や規範意識が成長とともに身につけてきたことをふまえ、ものごとの意味やよさを自主的に判断すること、また互いを認め合うとともに自己肯定感を育むことを意識した内容としている。</li> <li>●3～4年……行動範囲や人間関係が広がり、活動的になるとともに、内省する心も育ってくる段階であることを考慮し、自己理解や周りの人々と協力し助け合うことを意識した内容としている。</li> <li>●5～6年……<b>中学校段階との接続</b>を視野に、よりよく生きる喜びを実感し、国家・社会の一員としての自覚を育てることを意識した内容としている。</li> </ul>	【1年】 たのしいがっこう (p.6～7) ～あとかたづけ (p.24～27) 【2年】 およげないりすさん (p.24～27) ～こころのベンチ あなたのクラスのだあれだ (p.34～35) など 【3年】 石ころを見つめてみたら (p.22～23)、心をしずめて (p.142～145) など 【4年】 ちこく (p.26～31)、ネコの手ボランティア (p.138～141) など 【5年】 のび太に学ぼう (p.6～9)、かぜのでんわ (p.162～169) など 【6年】 スポーツの力 (p.6～9)、のぼさんの夢－正岡子規－ (p.162～165) など
2. 内容の取り扱い	(1) 「考える道徳」「議論する道徳」の趣旨をふまえた教材になっているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●従来の結論ありきの教材ではなく、児童が自ら考えたい教材を開発している。また、「学習の手引き」が設定された教材では、考え、議論する道徳の進め方を明示している。</li> <li>●巻頭オリエンテーションページの「道徳のとびら」で、学習内容やそのねらいなどを端的に記している。</li> <li>●巻頭オリエンテーションページの「道徳の学び方」で、学習方法を解説し、学習の支援になるよう配慮している。</li> <li>学習方法は、「①気づく」→「②考える・深める」→「③見つめる・生かす」と示し、特に「②考える・深める」では、話し合い活動を具体的に写真で提示して、「考える道徳」「議論する道徳」が視覚的にとらえられるよう工夫している。</li> </ul>	「道徳のとびら」…【各巻】(p.2～3) 「道徳の学び方」…【各巻】(p.4～5)
	(2) 主体的・協同的で深い学び(アクティブ・ラーニング)への配慮 「問題解決的な学習」「道徳的行為に関する体験的な学習」について適切な配慮がされているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●児童が主体的に道徳的価値について考えられる問題解決的な学習や、体験を生かして学ぶ体験的な学習を取り入れ、いきいきとした授業が展開できるよう配慮している。これらの教材に続いて「学習の手引き」を示し、学びと指導の参考例として活用できるようにしている。</li> <li>●<b>問題解決的な学習</b>……問題解決的な学習方法を想定して構成した教材は、教材のあとに「学習の手引き」を挿入して、問題をつかむ活動や考える活動を促す発問などを示している。問題解決的な学習のステップとして、「問題把握」→「自力解決」→「集団検討」→「まとめ」を採用し、児童の学習の参考となるよう配慮している。</li> <li>●<b>道徳的行為に関する体験的な学習</b>……特に体験的な学習を取り入れることが適していると考えられる教材には、教材のあとに「学習の手引き」を挿入して、具体的な活動例や留意点などを示している。役割演技や動作化の写真をふんだんに提示し、児童の配置や必要な小道具、配慮事項などを具体的に示しているため、実際の授業場面で大いに参考にすることができる。</li> </ul>	【1年】 やめろよ (p.100～103) 【2年】 あぶないよ (p.62～65) など 【3年】 もっと調べたから (p.28～33) など 【4年】 ちこく (p.26～31) など 【5年】 通学路 (p.66～71) など 【6年】 ほんとうのことだけど…… (p.14～19) など
	(3) 児童が深く考えることができ、人間としてのよりよく生きる喜びや勇気が与えられる教材になっているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●各巻とも、魅力のある教材をふんだんに取り上げている。中でも、今般の学習指導要領の改訂で新たに設けられた内容項目である高学年の「Dよりよく生きる喜び」の教材はどれも優れている。児童の興味関心を著しく喚起させるだけでなく、人間であれば誰もがもっている弱さと同時に、それを乗り越えようとする強さや気高さについて理解させることができる教材である。登場人物</li> </ul>	【5年】 のび太に学ぼう (p.6～9)、かぜのでんわ (p.162～169) 【6年】 スポーツの力 (p.6～9)、のぼさんの夢－正岡子規－ (p.162～165)

	教科書検討の観点	「小学道徳 生きる力」の内容の特色	主な関連ページ
2. 内容の取り扱い	(4) 多面的・多角的な学習への配慮 多様な見方や考え方のできる事柄を扱う場合は、特定の見方や考え方に偏ることなく児童の発達段階に即して多面的・多角的に考えられるように配慮されているか。	の生き方に深く共感を覚えさせ、誇りある生き方、夢や希望など喜びのある生き方につなげていくことが期待できる。  <ul style="list-style-type: none"> <li>●多面的・多角的な見方や考え方の育成については、次のような配慮をしている。</li> <li>①<b>友達の見聞を聞く姿勢の示唆</b>……オリエンテーションや手引きのページに掲げた児童の学習場面、特に自分で深く考える場面や、二人で、あるいはグループで話し合う場面の写真を手掛かりに、協動的な学習の重要性を示唆している。</li> <li>②<b>心のベンチ</b>……本教材とは異なった角度から問題を考える素材を例示しており、見方や考え方を拡張するように配慮している。</li> <li>③<b>複数の内容項目に関わる教材</b>……高学年では、ふるく①で、複数の道徳的価値が対立する状況を取り上げた教材を掲載しており、学校や学級の実情に応じて活用することができる。</li> <li>④<b>自分とは異なる意見を記録する活動の示唆</b>……別冊の「道徳ノート」には、「友達のを考え」を記録するスペースを確保しており、多様な考えを尊重する姿勢の大切さを示唆している。</li> </ul>	【各巻】 道徳の学び方 (p.4～5)  【1年】 せかいのおはよう (p.70～71) など 【2年】 「ありがとう」をつたえよう (p.120～121) など 【3年】 おしゃべりすごろく (p.20～21) など 【4年】 「友達のよいところさがし」ビンゴゲーム (p.58～59) など 【5年】 愛されつづける日本のマンガ・アニメ(p.24～25) など 【6年】 食について考える (p.96～97) など
	(5) 児童が主体的に道徳性を養うための指導への配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>●児童の考えを引き出すために、次のような紙面づくりがおこなわれている。</li> <li>●<b>発問の流れ</b>……導入部から展開後段に至るまで、児童の思考の流れに沿った発問を設定し、自発的な思考を引き出そうとしている。</li> <li>①<b>導入のための発問例</b>……教材の入口に、教材に入り込むきっかけとなる発問例が掲載されている。</li> <li>②「考えてみよう」……教材のねらいに迫るヒントとなる発問例が示されている。</li> <li>③「見つめよう 生かそう」……学習を通して学んだこと、わかったことを自発的に確かめ、これからの児童自身の生き方に生かしていくための発問例を示している。</li> <li>●<b>キャラクター</b>……本紙全体を通して児童をガイドし、学びを自ら進めていきたくなるよう促す役割のキャラクター「ココロウ」を設定している。上記の発問のうち、導入のための発問例は「ココロウ」が担当している。また、「ココロウ」以外にも、児童の目線で疑問に思ったこと、やってみたいと思うことを投げかけるための4人の児童キャラクターも登場し、児童が主体的に学んでいく様子を紙面で実現している。上記の発問のうち、②と③は児童キャラクターが担当している。</li> </ul>	※問題解決的な学習や道徳的行為に関する体験的な学習の手引きが挿入された教材は、「考えてみよう」と「見つめよう、生かそう」の発問例は省略されている。  ※キャラクターは各巻とも目次のページで紹介されている。
	(6) 多様な考えを生かすための言語活動への配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>●協動的な学びを重視するという観点から、ペアトークやグループトークの学習形態が各所で示唆されており、話すことや聞くことを大切にしようという編集の意図が見受けられる。</li> <li>●また、別冊「道徳ノート」が用意されており、道徳科の時間における児童の道徳性の成長の様子や学習状況を継続的に把握でき、指導や評価の参考にできる。</li> </ul>	
	(7) 地域性への配慮 地域性を考慮し、内容に広がりをもった教材になっているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●児童にとって特に身近に感じられる、地域の特色を生かした地域教材の活用、開発にも配慮されている。北海道から九州まで、全国各地の魅力的な素材が教材化されており、児童が興味を持って道徳科の学習に取り組むであろうことが期待できる。また、素材の取り上げ方は、各地での教材開発にも資すると考えられる。</li> </ul>	【1年】 はしれ、さんりくつどう (p.110～113：岩手県) など 【2年】 花火にこめられたねがい (p.58～61：新潟県) など 【3年】 澤村投手のボール (p.162～165：三重県) 【4年】 海をこえて (p.36～41：埼玉県)、聞かせて、君の声を！ (p.80～84：北海道) 【5年】 「太陽のようなえがお」が命をつなぐ (p.130～133：兵庫県) など 【6年】 創志くんと子牛 (p.174～177：宮崎県) など
(8) 家庭や地域社会との連携による指導への配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「道徳科」がどのような教科でどのような学習をするのか、またこの教科書でどのようなことを学ぶのかをオリエンテーションのページなどで保護者にメッセージ性をもって伝え、学校・家庭・地域の連携を示唆している。</li> <li>●また、別冊「道徳ノート」には保護者記入欄も用意されており、家庭との連携を大切にしている。</li> </ul>	【各巻】(p.5) 【道徳ノート1年】(p.39～40) 【道徳ノート2, 5, 6年】(p.41) 【道徳ノート3, 4年】(p.40～41)	

	教科書検討の観点	「小学道徳 生きる力」の内容の特色	主な関連ページ
	(9) 他教科との関連 道徳の学習を核に、他教科等への広がりや考慮した扱いになっているか。	●他教科とを関連付けるだけでなく、他教科等の学習活動そのものを素材とした教材を開発・掲載している。道徳科には、各教科等における道徳教育で、道徳的価値の相互関連や全体的なつながりなどの考察が必ずしも十分に確保できなかった場合、これを捉え直したり、発展させたりすることが期待されているが、他教科と直結した教材と接することで、この役割を効果的に実現することができる。	【国語科書写】うまくなりたいけれど（3年 p.42～45） 【社会科】もっと調べたかったから（3年 p.28～33） 【理科】虫が大好きーアンリ・ファープルー（2年 p.44～47） 【音楽】和太鼓調べ（5年 p.50～53） 【図画工作】いのりの手（4年 p.52～57） 【体育】がんばれ友ちゃん（3年 p.120～123） 【総合的な学習の時間】交かんメール（4年 p.118～121） 【委員会活動】本がかりさんがんばっているね（2年 p.20～23）、やさしいユウちゃん（5年 p.32～35）
	(10) 現代的な課題の題材の取り扱い	●「いじめの防止」をはじめとする重要なテーマに関わる教材については、複数の教材を配置（ユニット）することで、学級の状況に応じた授業を展開できるよう工夫されている。どのテーマがユニットされているかは目次に一目でわかるように示されている。 ●最も重要なテーマに位置付けられ、多面的・多角的な視点から考えられるよう複数の教材が用意され、重点化されている。 ●いじめの事象そのものの教材だけではなく、「相互理解、寛容」や「友情、信頼」、「生命の尊重」などの内容項目で取り扱う教材の中から人間関係や命の尊さなどをテーマとした教材と組み合わせ、複数の教材（ユニット）を集中的に扱う構成とすることで、この問題に対する心情や態度の育成を図ろうとしている。 ●いじめ防止をテーマとしたユニットは、学期に一回配置し、この問題を重点的に取り扱うことを示唆している。 ●ユニットには、心のベンチと組み合わせたものが配置されていて、テーマに合わせて活動したり、多面的・多角的に考えたりすることで、より深い学びへと到達することができる。	【1年】かずやくんのなみだ（p.72～75）、やめろよ（p.100～103）など 【2年】およげないりすさん（p.24～27）、ある日のくつばこで（p.96～101）、みんながかいけつ（心のベンチ p.94～95）など 【3年】石ころを見つめてみたら……（p.22～23）、同じなかまだから（p.84～89）、いじめをなくすには……（心のベンチ p.90～91）など 【4年】ちこく（p.26～31）、いじりといじめ（p.94～99）、なくそう！いじめ（心のベンチ p.92～93）など 【5年】名前のない手紙（p.26～29）、知らない間のできごと（p.140～143）、【いじめ】の傍観者（心のベンチ p.30～31）など 【6年】わたしのせいじゃない（p.140～145）、いじめについて考えよう！（心のベンチ p.28～29）など
	① いじめの防止		
	②安全の確保	●「防災」・「防犯」・「交通安全」の観点から構成されている。低学年から高学年にかけて、次第に活動範囲が拡大するのに対応した教材を選定している。 ●特に防災については、東日本大震災以降、防災・安全教育への関心や必要性がますます高まっていることをふまえ、一人一人の安全を確保するための知識・能力を向上させることがますます重要になっているとの観点から、東日本大震災だけでなく、阪神・淡路大震災についても多くの題材を掲載し、関心を高めようとしている。	【1年】はしれ、さんりくてつどう（p.110～113）など 【2年】あぶないよ（p.62～65）など 【3年】どんどん橋のできごと（p.62～67）など 【4年】ほんとうに上手な乗り方とは（p.104～107）など 【5年】【太陽のようなえがお】が命をつなぐ（p.130～133）、かぜのでんわ（p.162～169）など 【6年】自分を守る力って？（p.108～113）など
	③「情報モラル」	●情報社会の倫理や、法の理解と遵守を中心に「自由と責任」・「節度、節制」・「情報のすれ違い」などの観点から取り上げられている。高学年ではユニット化が図られるなど、重点的に扱われている。 ●低学年では日常の経験の中から情報（言葉）の意味や影響を考えさせる教材を選び、中学年以降で実際の通信機器に関わった教材を配置しており、発達段階に応じた配慮をしている。 ●高学年では、情報社会の倫理や情報セキュリティ等に関わる内容を考えさせようとする教材も掲載されており、情報モラルについてよく理解させられる内容となっている。	【1年】ひつじかいのこども（p.44～49） 【2年】たけしの電話（p.82～85）など 【3年】ちゃんと使えたのに（p.46～50） 【4年】交かんメール（p.118～121） 【5年】のりづけされた詩（p.72～75）、すれちがい（p.134～139）メールの使い方（心のベンチ p.144～145）など 【6年】カスミと携帯電話（p.54～57）、情報モラルの達人チェックシート（心のベンチ p.58～59）など
	④社会の持続可能な発展	●持続可能な発展をめぐる、環境、貧困、人権、平和、開発等さまざまな問題があり、それぞれ多様な道徳的価値に関わる葛藤があるが、学年の発達段階に配慮しつつ、教材が適切に配置されている。 ●また、これらの諸課題には多様な見方・考え方があるため、児童に話し合い活動を促すなど、一面的な理解に陥らないように配慮されている。	【1年】おおひとやま（p.84～87）など 【4年】聞かせて、君の声を！（p.80～84）、守りたい、この自然（心のベンチ p.85）など 【5年】母さんの歌（p.54～57）、ひとふみ十年（p.100～105）など 【6年】緑の闘士ーワンガリ・マータイ（p.92～95）、杉原千畝（6年 p.98～101）など
	⑤その他の諸課題	●食育や伝統文化教育、国際理解教育、キャリア教育等、様々な現代的な諸課題について、それぞれ本教材や「心のベンチ」で適切に取り扱われている。 ●特に、伝統文化教育や国際理解教育は、内容項目にも示されているため、取り扱う教材数が多い。また、それぞれの内容項目は、学年が上がるにつれて表現や要素が変化していくが、配置された教材はその変化によく対応しており、それぞれの学年でのねらいが容易に達成できるよう配慮されている。	【食育】うつくしいわがし（1年 p.118～121）、いろいろな食べ方（4年 p.176～178）など 【キャリア教育】美しい夢ーゆめびりかー（5年 p.90～93）、父の仕事（5年 p.108～111）など 【伝統文化教育】ぎおんまつり（2年 p.48～51）、ふるしき（3年 p.34～37）、浮世絵（4年 p.134～137）、ぼくのお茶体験（6年 p.38～41）など 【国際理解教育】学校へいくとき（1年 p.66～69）、タヒチからの友だち（2年 p.54～57）、海をこえて（4年 p.36～41）、東京オリンピック 国旗にこめられた思い（6年 p.42～45）など

2. 内容の取り扱い

	教科書検討の観点	「小学道徳 生きる力」の内容の特色	主な関連ページ
	(11) 多様な教材が扱われているか。	●「生命の尊厳」「自然」「伝統と文化」「先人の伝記」「スポーツ」「情報化への対応」などの多様な教材が扱われている。 ●「生命の尊厳」に関わる教材では、生命あるすべてのものをかけがえないものとして尊重するという姿勢が貫かれており、児童が発達の段階に応じて生命の尊厳について考えられるようになっている。 ●「先人の伝記」に関わる教材では、多様な生き方が紹介され、生きる勇気や知恵などを感じられるとともに、人間としての弱さを見せる姿なども表現され、生きることの魅力や意味などについて深く考えられるようになっている。 ●「スポーツ」については、世界を舞台に活躍する選手やそれを支える人々の公正な態度や礼儀、連帯精神、チャレンジ精神や力強い生き方や苦しみなどを考えさせる教材が選ばれており、道徳的価値の理解や、それに基づいた自己を見つめる学習を進めることができる。 ●「自然」は2.(10)④、「伝統と文化」は2.(10)⑤、「情報化への対応」は2.(10)③を参照してください。	【生命の尊厳】うまれたてのいのち（1年 p.8～11）、「生きているから」（2年 p.150～153）、お父さんからの手紙（3年 p.92～95）、お母さん かないで（4年 p.168～171）、【命】（5年 p.10～13）、命のアサガオ（6年 p.10～13） 【先人の伝記】虫が大好きーアンリ・ファープルー（2年 p.44～47）、富士と北斎（3年 p.170～175）、お父さんのじまん（4年 p.108～113）、マンガ家 手塚治虫（5年 p.20～23）、杉原千畝（6年 p.98～101） 【スポーツ】オリンピック・パラリンピック（1年 p.38～41）、澤村投手のボール（3年 p.162～165）、がむしやらに（4年 p.72～75）、ペルーは泣いている（5年 p.118～121）、スポーツの力（6年 p.6～9）など
	2. 内容の取り扱い		
	(1) 児童の発達の段階に即した道徳性を育成するために、教材が系統的に配列されているか。	●発達の段階への配慮とともに、生活目標や学校行事、他教科等の学習内容、伝統的な行事の実施時期などとの関係を考慮して教材を配列し、教育活動全体を貫く「要」としての道徳科の特質を生かせるように配慮している。 ●学年ごとに、児童や学級の実状をふまえ、1学期には学級作りや学校生活・集団生活の充実（低学年）、オリエンテーションやよりよい人間関係の形成（3～6年）、3学期には振り返り、深化、発展（次学年や中学校段階との連携を含む）を意識した内容項目や教材が配置している。	全巻を通して
	(2) 内容項目の分量が適切に配分されているか。	●学習指導要領の内容項目が過不足なくおさえられているとともに、重点指導項目は複数の教材が掲載している。（別紙の年間指導計画例を参照してください。） ●各学年とも35（1年は34）の主教材のほかに、「ふろく」として3～4の教材を収めており、各学校で年間指導計画を検討する際に選択の幅を広げることができるとともに、多様な教材を参考に、自主教材の開発に役立てることができる。	学習指導要領内容項目別教材一覧表…【各巻】（表紙裏）
	(3) 学習のねらいが明確に示され、問題解決的な学習など多様な方法に取り組めるよう配慮されているか。	●各教材にはすべて主題名を記載し、また、価値、または教材に関わる導入の発問例を示しているため、児童が見通しをもって学習することができる。 ●2.(2)に記されたように、問題解決的な学習や体験的な活動を用いた学習への手厚い配慮を施している。	【各巻】（全教材） 【各巻】（6教材）
	4. 正確性・表記・表現	●漢字は、原則として当該学年の配当漢字までを使用し、当該学年以上の漢字やキーワード・固有名詞等の漢字には、すべてにふりがなをつけ、読みの抵抗を少なくするよう配慮している。 ●頭注欄を活用し、やや難解な語句や、教材の読み取りのために必要な補足説明をていねいに解説している。 ●全体を通して、 <b>大きな判型（A B判）</b> を採用したことにより、さらに迫力のあるページ構成となっている。また、生き生きと学習に取り組む児童の姿を、写真資料としてレイアウトに工夫を凝らして掲載し、児童の学習意欲を喚起しようとしている。	全巻を通して
	(1) 特別支援教育の観点、ユニバーサルデザインへの配慮	●特別支援教育への配慮やカラーユニバーサルデザインの観点から、大内進先生（国立特別支援教育総合研究所客員研究員）による校閲のもと作成している。 ●カラーユニバーサルデザインへの配慮 一人一人の色覚の違いを問わず、多くの児童に見やすいように、レイアウトは、色調や色の組み合わせに細部まで配慮している。 ●読み取りやすさに配慮した教科書 スムーズに読み進められるように、本文の割り付けは、読みやすいまとまりで改行している。また、教材タイトルの部分にあらずじを示したり、必要に応じて主な登場人物を整理して配置するなどして、教材を読み取る際の抵抗をできるだけ緩和するための配慮をしている。	全巻を通して
	(2) 印刷・製本	●環境への配慮……教科書の表紙には、従来よりも工夫された表面加工を施すなど、化学物質に過敏な児童に少しでもやさしいものになるような配慮をしている。また、印刷においては、植物油インキが使用され、環境にもやさしい本である。 ●堅牢で使いやすい造本……表紙は美しく丈夫な表面加工を施しているが、氏名欄だけは名前を記入しやすいように加工をのぞくといった細心の配慮をしている。また、製本は通常の無線綴じよりも丈夫なあじろ綴じが採用され、従来の針金綴じよりも本が大きく開くように改良している。 ●軽量紙の使用……大きな判型（A B判）の採用にとまない、児童の負担をできるだけ軽減するため、通常の上質紙よりも軽い用紙を使用している。	全巻を通して